

1. 法人理念  
基本理念

人と人とがめぐり会い、愛と愛とが出逢うところ ～共に楽しみ、共に生きる～  
◇ひとり一人の存在が大切にされる場所  
◇みんなの個性が発揮できる場所  
◇安心と安全を提供できる場所

- ・ハード面では、家族会・関係団体にご協力を頂き、四賀アイ・アイのトイレ改修を行なうことができた。綺麗になり、脱臭等衛生的にも大変ありがたかった。
- ・松本市深志に土地及び建物の所有ができ、今後の新たな法人展開のきっかけになる。
- ・経営運営課題の事業ではかなり現場の工夫があり改善がみられたが、引き続きの経営対策と、更に利用者の受入、職員人材確保等、今まで以上に検討が必要になっている。
- ・グループホーム茶楽の利用者平均区分とスプリンクラー設置の課題は、利用者・ご本人のご理解を頂き、グループホーム間の入替という形で、一応の解決はみたが、特に茶楽、四賀アイ・アイの建物・ハード面の老朽化と今後の改修・改築等の検討が必要になってくる。
- ・グループホーム寒梅の利用者さん（61 歳）が癌告知から約 2 年半の闘病生活を現場職員の頑張りもあり看取ることができた。法人下で入退院の方も増えている中で、今後の看取りのあり方や支援のあり方と職員配置も現実的な課題になる。

2. 平成 30 年度 法人重点方針

① 重点方針

<小さな権利侵害を見逃さない法人をめざす>

- ・四賀アイ・アイの県監査で、感染症時等の居室静養室隔離の判断や記録等の対応不備の指摘があった。慢性的な事が小さな権利侵害つなると改めて反省し対策を講じている。
- ・事故報告はポイントを絞って提出されるようになってきているが、ヒヤリハット含め、職員個人毎の気付きや意識の差を縮めていけるように幹部会を活性化していきたい。

<障害者差別解消法及び虐待防止法、障害者総合支援法等の理解を深め、対応に努める>

- ・法人研修の中で虐待防止法は触れているが、全体的に年間通じ、諸法制度を意識して議論し支援に盛込めていなかった。事業によっても事業所間で意識の差があった。

<法人研修や専門研修に出席し、職員の支援の質を高めると共に、関係機関との連携を深める>

- ・年 4 回の法人職員全体研修では、①話す力と聞く力（新保文彦氏）②施設で最期を迎えるということ（小林彰氏）③法人職員 6 名の研修伝達研修④次年度に向けた研修+権利擁護研修+新職員抱負発表を実施。充実した内容だったが、振り返りと日々への応用が課題。
- ・新人研修、他研修での、新人や中堅職員の発表の場でも、日頃聞き取れていない現場職員の思いが聞ける事が多かった。若い職員の活躍の場の設定を増やす事が大事だと感じた。

② その他の主な事業計画から

<新春アイ・ワールド展>

- ・法人初の 1 月開催だったが、季節らしい工夫が随所にあり、来館者や美術館様からも好評を頂いた。この時には異例の 700 人を超す来場者があった。

<家族会懇談会>

- ・家族会と法人との懇談会を実施。

主なご意見として、①看取りについて②大災害について③グループホーム等事業展開について④職員とのコミュニケーションについて…が多かった。次年度に取りかかっていく。

## 平成 30 年度 障害者支援施設「四賀アイ・アイ」事業報告

(重点目標) “みんなで声をかけ合って、みんなが笑顔になれる支援を目指します”  
～一人ひとりが主人公になる～

- 個別外出、誕生日外出、グループ外出、有償運送による希望外出が増え、利用者の個人の楽しみの機会が前年よりも増えた。
- 医療面から可動制限になる利用者の人数が増え、活動種の幅はなかなか広げられず、個人希望でなくG単位になってしまう状況がある。その中でもできる工夫をもっとしていきたい。
- 職員側からの「声をかけ合って」の部分は、利用者への関わりや職員間の連携、下準備において、もっと積極的な対応とチーム支援の意識をさらに上げる必要がある。
- 各行事や年度の節目に、もっと前面に重点目標を掲げて意識を上げる工夫が足りなかった。

### (事業の目的)

ひとり一人の人権と個性が理解尊重され、その人らしさが発揮でき、生きがいの持てる地域の福祉拠点を目指します。そこには、笑顔と笑い声が充ち溢れ、文化活動があり、人々の交流がある、誰においても家庭的で温かな場所を提供します。

- 昨年はお二人のお別れがあったが、看取り支援から、改めてその人に特化した日頃の寄り添いとチーム連携の大事さが身に染みた。アイ・ワールド展の個人作品への関わりはよくできたが、日々の生きがいについては、活動全般の見直しが課題にある。

### (事業の方針)

#### 1. 次の事業を展開します

- ①施設入所支援(定員35名):家庭的、安心、安らぎを追求します。
  - 入退院の方、嚥下支援の方、等が増えている。誕生日外出等の個人を主役にする活動も工夫はあるが、介助が必要な方や行動障害の激しい方へ支援の時間が偏る状況が年々増えている。
- ②生活介護(定員50名):生きがいと健康を念頭に活動や社会体験を支援します。
  - 入所と通所の混在型での活動は、利用者の動き方の幅が大きく、活動内容の工夫がより必要になっているが、グループや個別の外出、ヨガの日、料理活動、等々項目が増えてきた。
  - 通所契約されても、実際の利用が一定しなかったり、地域からのアセスメント時に課題がつかめていないことが課題になるケースが増えている。
- ③短期入所/日中一時支援:地域貢献と位置付け、地域の在宅支援を支えます。
  - 行政事情でお二人のロングショートの方の利用を含め、地域の受け入れについては、現場でよく受け入れて頂いている。長年課題の四賀地区内の方の日中受入が始めることができた。

#### 2. その人らしく健康な生活を支援します

- ・健康増進に利用者の個性と高齢化や医療状況に合わせた配慮と工夫をします。
- ・活動と行事を楽しく、利用者に分かり易いものにします。
- ・ひとり一人の個別支援計画の流れを分かり易く進めます。
- ・ご家族との連携を大切にし、共に利用者を支えます。
- 嚥下対応の方が急激に増えたこと、また看取りに関わったこと、個別の対応が複雑になってきて、改めて知的障がいと高齢化支援を考える年になった。散歩等、体力向上への機会も増えた。
- 日課活動行事目標等への各利用者への伝え方に工夫が足りず、利用者が不安になる事がある。

- 健康・体力とも個人差に合わせながらの、大人数を動かすことが年々難しくなっている。
- 利用者の本当のニーズが汲めているか含め、アセスメントの勉強会も必要と感じる。
- 家族連携は必要な対話が足りなかったり、ご家族が話し易い職員へ話す傾向もあったり、職員-家族によってはLINE やり取りもみられるが、家族・職員双方に課題がある。

### 3. 暮らしの環境を整備します

- ・清潔で快適な暮らしになるよう環境整備に努めます。水回り整備と工夫を優先します。
- トイレ改修で気持ち良く利用できている。また個に合った使い易い風呂も至急望まれるところ。
- 利用者個室希望、地域ショート、実習生、感染症時、等々、居室も不足状況になっている。
- 洗濯等ランドリー機器は大型洗濯機1・乾燥機1で何とか回っている状況。

### 4. 地域に根付いた福祉拠点を目指します

- ・四賀地区、子供、高齢者、障がい児者に渡り、地域福祉に貢献します。
- 四賀小の運動会・音楽会交流、すみか（認知 GH）の方の訪問等あるが、地域との交流は少なかった。
- ショート受入では一定の貢献はできている。
- 四賀地区では、文化祭・会田中文化祭で、利用者作品を多くの方に見てもらえた。
- 管理者としては、四賀地区地域づくり協議会、四賀小応援団（推進委員）、すみか運営推進委員で協力あり。

### 5. 安全で信頼のおける事業所である為に努めます

- ・ヒヤリハット対応の延長が虐待防止であることを意識し職員統一をスピーディーに進めます。
- ・医療との連携を常に相談し対応します。
- ヒヤリハットの提出が少ない。事故報告も含め、改善対応の検討と周知をもっと早くしたい。
- 医療面では、囑託医とのケース検討会が始まったが、進め方は課題。病院ではカレンダー共同も含め三才山病院との連携が良好。看取りを踏まえ、さらに医療と支援の学習研修も重要になる。

### 6. 知的障がいのある方に携わる職員としての資質向上を目指します

- ・社会人としてチーム支援の根本を見直し、職員連携の向上を進めます。
- ・狙いを持った研修・学習会を設定し、発表等からコミュニケーション力を高めます。
- ・職員の能力や個性も発揮できることが事業所カラーになるように進めます。
- 年間通じてチーム支援は課題。職員個人の動きになってしまいがちな状況がある。
- 事業所独自の学習会ができなかった。研修後の発表機会を更に重視にし連携向上を図りたい。
- 会議の全員集まらない状況は課題。時間・場所・業務分掌の見直しが必要になっている。
- 始まったケース検討会を大事にし、職員の成功体験を増やさなければいけない。
- 職員バンド、ダンス、芸術関係、料理スイーツ、等々、職員のカラーが個々に出始めた！

### 7. 年間行事計画

- 特に旅行は年度入っての企画だったが、年度始めに方針・期日の計画立てが必要だった。
- 秋開催2回目のアイ・アイ祭は、開催時季的に特に問題なかった。
- 若い職員のやりたい企画・役割分担をもっと反映できる事が必要。

# 平成 30 年度 多機能型事業所「あいらいふ南原」 事業報告

## 1. 生活介護（定員 10） 現員 11 名（GH⇒4 名 地域⇒7 名）

重点目標「一緒に楽しみを見つけるお手伝いをします。」

⇒午前か午後のどちらかは外へ出ることを目標にしています。一人一人の理解力やニーズに合わせ職員の配置等を工夫しながらお楽しみ外出など個別支援を取り入れてきました。

### ◎活動の内容

健康維持活動：散歩・水泳・体操、アイアイヨガ教室に参加など

楽しむ活動：買い物・調理・ドライブ・カラオケ・外食など

創作活動：法人の絵画展に出品する為全員で取り組む。バザー用の作品作り。

地域貢献活動：ゴミ拾い散歩・資源の回収（就労 B のお手伝い）・「南原歌う会」へ参加・「出前ふれあい健康教室」へ参加

## 2. 就労継続支援 B（定員 10）現員 15 名（GH⇒5 名 地域⇒10 名）

～利用者によって毎日通所する方と通所日が曜日で決まっている方がいます。～

重点目標「この仕事は私に任せてくださいと言えるような職場環境を目指します。」

⇒個々の作業能力に応じた支援をし、精巧さ・速度が上がってきています。

数社の外注の仕事が定期的にくることで仕事の能率アップができ集中して作業する力もついてきました。また利用者自らがやりやすい仕事の方法を考えるようになってきています。

### ◎仕事の内容

資源物：南原・企業・アイアイ・一般家庭等

グループ就労：合庁清掃・ホテルドーマイン（週に 5 日）

ポスティング：「まかせて松本」 歩いて一軒一軒配布（配布前に組み込み作業あり）

室内作業：セルフ・丁合・コトブキパック・マルイチ・F パッケージ・山雅チラシ封入

バザー：合庁バザー・ナイスハートバザール他（セルフ関係）参加

創作活動：法人の絵画展に出品するため全員で取り組む。バザー用の作品作り。

◎工賃は時給 100 円を支払っています。休まず通所されると月に約 1 万円の収入になります。

## 3. その他

- ・全職員が何らかの研修会に参加し支援技術と知識を磨く機会を得ました。
- ・月に一度は生活会議・就労会議を行い、個々の個別支援計画を意識できるようにしてきました。（情報共有）
- ・7 月の夏祭りは地域に定着しています。
- ・南原町会の個人の資源回収の依頼も地域貢献の一環としてできるだけお応えしています。
- ・グループホーム「茶楽」のある北原町の夏祭りに職員が焼きそば・チョコバナナで出店しました。

## 4. 課題と考えられる事

- ・就労継続支援 B 利用者の工賃アップ。
- ・生活介護利用者の利用者増。

## 平成30年度 共同生活援助(グループホーム)事業所 事業報告

寒梅：5名 よつば：7名 茶楽：3名 \*寒梅は現在1名空きあり

【重点目標】一人ひとりの“おもい”に寄り添った支援を目指します

- ・「寄り添っている」とハッキリ言いきれない部分はあると思うが、個人の事を考えて支援は出来ていると思う。
- ・実際は一人での支援になる為、「出来ている」と言う評価は難しい。「それで良い」と言う助言がない。
- ・「評価」をどうしていくかは課題。

【事業方針】

- ① 素早い対応は難しかった。利用者との話す時間を増やす、職員の横の連携を強化する等で改善したい。
- ② 大きく捉えた連携は出来たと思われるが、細かい部分での仕事内容等も今後は連携して行っていく。ご家族との連携は出来たと思う。
- ③ サービス等利用計画及び個別支援計画を各ホームに準備出来た事は評価できる。来年度としては更に個別支援計画の中身までしっかり支援、振り返りをしたい。

【年間事業計画】

- ① スタッフ連絡会（毎月）
  - ・連絡会を行う事でスムーズになった事が多い。回数も、もっと多くても良い。
  - ・感染症等が各ホームで出た時には（職員含む）、緊急連絡網で周知する事とする。
- ② グループホームごとに世話人連絡会の開催（毎月）
  - ・会議時間については工夫が必要。利用者及び職員との会議以外での話す時間の工夫を行う。
- ③ 居宅介護事業所との調整連絡・連携（毎月・適宜）・・・サビ管（・世話人）
  - ・早め早めの連携の中で、希望に添う内容をお願いして行きたい。
- ④ ケア会議へ参加（適宜）
  - ・サビ管が主に出席していたが、支援員にも協力して出席して頂いた事で、流れ等も分かって良かった。
- ⑤ 医務連絡会への参加（隔月）・・・サビ管
  - ・周知方法の工夫が必要。
- ⑥ 各会での情報の共有・・・サビ管
  - ・上記同様の工夫が必要。
- ⑦ 各種研修会等への参加（適宜）・・・世話人、サビ管、管理者
  - ・どの職員にも均等に出席してもらう事は課題。参加の呼びかけの工夫をしないと難しい。
  - ・職員に何を研修したいか等の聴き取りをしてみる。
- ⑧ 避難訓練（年2回 9・3月）・・・管理者、サビ管、生活支援員、世話人、利用者
  - ・計画通り出来た。また、必要な物の準備も整って来た。（ヘルメット等）
  - ・やり方等ではしっかり徹底したい。
- ⑨ 自己チェックの実施（年4回 5・8・11・2月）
  - ・チェック内容を変更した事で、要約自己チェックの意味が出たと思われる。
  - ・1年の目標を自分で決めて、チェック出来た事の成果が大きい。

# 平成 30 年度 居宅介護事業所「あいさぽーと」 事業報告

## <利用者>

( )は前年比

### 契約者数

27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
77(+22)	97(+20)	110(+13)	130(+20)

### 延利用者数

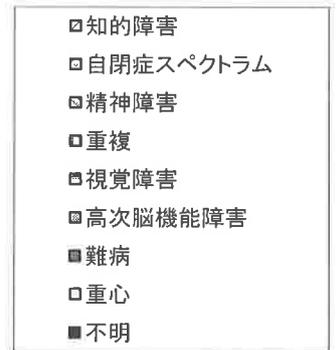
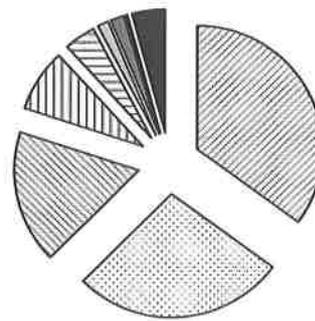
27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
2,944	3,072(+128)	3,468(+396)	4,327(+859)

## <内訳>

### ① 障害種別

・知的障害に次いで、自閉症スペクトラム※、精神障害が多数を占めている。

※社会性の偏り、強いこだわり、対人関係の苦手さ等が特徴。

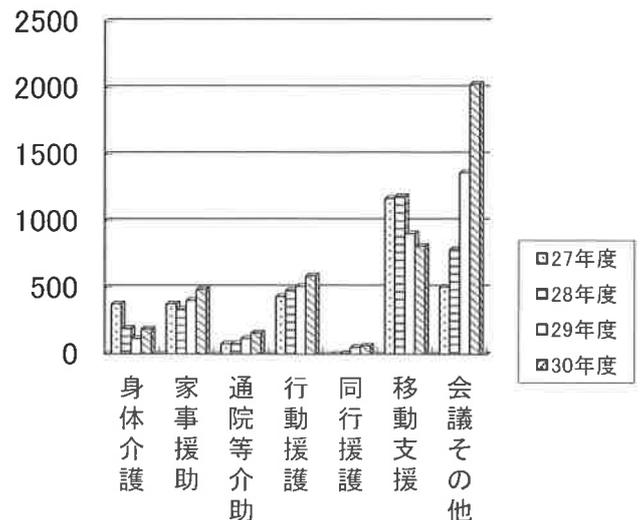


### ② 事業種別

・移動支援以外の事業はいずれも増加  
⇒施設入所待機者もしくははじめから入所は望まず、地域での暮らしを選択している方が増えてきている。

・会議その他  
個々の支援会議の他、行政も参加している松本圏域自立支援協議会へ出向き、居宅介護事業所の実情や課題について報告し検討を重ねている。

また、平成 29 年 7 月より開始している入所(四賀アイ・アイ)利用者を対象とした外出支援も含まれている(38 件/年実施)。



## <福祉有償運送(移動支援時の車両を伴う移動について料金(150 円/km)が発生)>

平成 29 年 7 月より開始。30 年度は延べ 1,261 件実施。

## <職員体制>

○管理者：1 名(あいほっと兼務)

○サービス提供責任者：1 名(常勤)

○ヘルパー：正規常勤 1 名、パート常勤 1 名、登録 5 名

職員一人当たり、1 日 2~4 件の支援を実施。

## 平成 30 年度 障がい者相談支援センターあいほっと 事業報告

<全体人数：153件（内児童13件）法人：73件 法人外：60件 終結20件>  
<基本相談：29件>

### 【重点目標について】

「松本地域でのよりよい生活を考えます～あなたも力を持っています 私たちが応援します～」

- ・研修講師を受けることが増え（県だけでなく、法人ごとでも）、理念や目標について意識してもらうことをよく話すことが増えた。今はそれでも言える。その為に意識できたことで、計画相談におとすところが変わってきたように感じる。「〇〇なってほしい」ではなく、本人の持つ力の意識ができた。理念を意識していくことの大事さを実感した。意識すれば楽にもなる。
- ・アセスメント等で、「本人の力を活かす」ということを強く意識するようになったと思う。前の計画よりも、その点を意識できるようになったとは感じる。着眼点は変わってきたように感じる。
- ・たった一行であるが、意識しなければ覚えられないものだと感じる。月ごとに追われる感じは否めない。理念を意識する以前の問題だなと感じる。
- ・在職して3ヶ月、法人理念は強く意識している。重点目標までは意識できていなかったか・・・【愛を持って】ということは何れにやっていたい。
- ・見返すことが少ないので、重点目標を改めて「はっ」とさせられた。相談者に力があることをご本人にどう伝えていくのかうまくいかず、もどかしさを感じることもある。
- ・【私たちが応援します】の部分をおせっかいになりすぎないようにしたいし、なっちゃんいけないなとも思う。力を認めつつ、支えていくことのベクトルを合わせることに難しさを感じる。

### 【事業方針・内容について】

#### （1） 基本相談：29件

- ・計画相談にのっている方でも計画にのらない部分の相談もある。計画を作る直前でないと連絡をとらない・・・ということ改善しないといけない。「最近どうですか」という連絡を大事にしていきたい。何もなければ何もない、でいいが、特に半年ごとの方は注意したい。
- ・基本相談といえど、ケース記録を残すことは大事。最低限は抑えているのではないかと考えている。

#### （2） 計画相談：133件

- ・計画そのものは遅れがち！反省です。会議はよくできていたと思う。
- ・会議をどの程度重要視するのは事業所間の差を強く感じる。相談だけでなく、サービス提供事業所の中にもそれはある。会議を数年間まったくしないというのは結果的にご本人やご家族の不利益になるものだと思う。
- ・サービス利用計画≠サービス「等」利用計画である意識。計画がなくても利用できるサービス提供事業所への配慮は大事にしたい。

(3) 地域移行支援：0件

- ・今年度の残りも、次年度ももう少し積極的に受けて行かれる整備が必要。

(4) 地域定着支援：5件

- ・計画相談と事業所が違う場合は、情報については確認は必要だと思う。一方で、定着支援に入ることでご本人が落ち着いてきたと感じた。クライシスプランについても「マッチすれば」非常に有効的だと実感した。一生ものではないが……。うまくいっていないケースも当然あり、ご本人の自己解決能力を養っていく必要があると気付いたことはあった。頼るべき時に頼れない方については、関わり方を考えていかなければいけないと感じた。

【事業計画について】

- ① 連携についてはできていると感じる。現在、あいほっと内での全体の会議は2回/月、週ごとに打合せ1回/月をするようになった。記録もとっている。平成31年1月より、体制加算をとることになった。関係機関とは会議を中心とした連携をとれている。
- ② すべきものという前提なので、できている。⇒次年度の内容は検討。
- ③ 相談員の情報量の差によって、ご本人の不利益にならないように注意している。新しい情報は、総合相談も含めた法人内会議をもつことでより綿密にやりとりできている。法人から出向していて、合同会議ができていることはありがたい。
- ④ 情報発信は、総合相談にとって今後課題にさせていただいてもいいのではないかと思う。定期発信。各センターの役割についてややぼんやりしてしまっている事があり、いつどのタイミングで介入してもらうのか、相談すればいいのかを悩む時がある。